

◆◆◆ ~校長からの Message~ ◆◆◆

メデュカパスが 驚異的な合格率を 維持している秘訣



メデュカパス校長
田村 和香氏

厳しい戦いを強いられる 医学部受験

昨今、医療の分野で医師不足が大きな問題となり、一つの課題として取り上げられるようになってきました。それを受けて多くの医大では地域枠や奨学金を設け、地域医療を志す優秀な学生を集めようとする動きが出てきました。さらに各都道府県でも地域医療のために優秀な医学生に奨学金を出そうという機運が広がり、多くの自治体が独自の奨学金を創設しています。それを利用して医学部へ進学する受験生も増え、毎年国公立・私立の医学部で9000人という定員枠をめぐり激戦が繰り広げられています。事実、2014年の医学部受験者は、前年の13万人から14万人に増えています。しかも、受験生の質もさらに上昇し、厳しい戦いを強いられることは、必至の状況になっています。

脳科学からヒントを得た 「Input-Output方式」

そんな過酷な状況の中で、メデュカパスは毎年全在校生の7割が医学部に合格するという驚異的な合格率を誇っています。この成績を維持している秘訣の一つは、「Input-Output方式」です。脳科学者との対話を重ね、その中でヒントを得て独自に考案した方式です。生徒が日々の学習の中で疑問に思った問題、理解できなかった問題を講師に質問し、理解できたらそれを週2回行われる「Input-Output」の時間に、3〜4人で構成されるメンバーに説明します。ほかの生徒に説明するためには公式なども完全に暗記している必要もあり、解説をコンパクトに頭の中で整理しておかなければなりません。また、そのメンバーの中には自分より優秀な生徒もおり、鋭い質問も返ってくるので、これま

で使われていなかった脳の部分を使って答えなければなりません。脳が活性化すると同時に知識の深化が図れ、一つの問題に対しても多角的に考えられるようになります。また、相手に理解してもらおうとするため、コミュニケーション能力も発達します。一挙両得の方式です。

あらゆる面で、教職員が 一丸となり合格へと導く

健全な生活、規則正しい食事は、受験生にとって大切な要素になります。とくに夕食は適切な時間にとることが、健康の面でも、また学力向上の点でも重要です。寮生の朝食はもちろん、寮生・通学生の夕食は、メデュカパスが運営する食堂で全員食べることになっています。管理栄養士の献立のもと、栄養のバランスのとれた食事を温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態でおいしく食べられるようになっていきます。30分間仲間とくつろいだ後、校舎に戻り、夜9時まで勉強することになります。朝9時から夜9時まで苦しい日々を仲間と共有しながら、共に励まし合って過ごします。

寮も完備しており、予備校から徒歩5分以内のところに男子寮・女子寮が別棟で用意されています。疲れた体を休め、翌日の勉強に備えられるように、少しでも早く体をリフレッシュさせられる場になっています。

メデュカパスが、グループ校である、はやぶさ、医岳舎と合同で毎年作成している対策本は、全国の多くの高校や医学部受験生たちから好評を博しています。3校舎の講師たちが精魂をこめて半年がかりで作成した力作です。私立医学部11校の対策本は、各大学の過去問を徹底的に分析、研究し、毎年出題される問題数・形式に合わせた予想問題で構成されています。受験会場無料で配布しますが、毎年多くのご注文もいただいています。この対策本を作成している講師たちがオリジナルテキストを作成し、授業を担当しますので、非常に質の高い授業になっていると自負しています。

自分の力を信じ、必死になって素直にこつこつと努力を重ねる生徒さん、「絶対に医師になるのだ」という固い決意を持った生徒さんを、メデュカパスの教職員一同が一丸となって指導し、合格へと導きます。